

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成 29 年 3 月 30 日 (2017.3.30)

【公表番号】特表 2014-532476 (P2014-532476A)

【公表日】平成 26 年 12 月 8 日 (2014.12.8)

【年通号数】公開・登録公報 2014-067

【出願番号】特願 2014-539045 (P2014-539045)

【国際特許分類】

A 6 1 M 31/00 (2006.01)

A 6 1 M 3/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 M 31/00

A 6 1 M 3/00 Z

【誤訳訂正書】

【提出日】平成 29 年 2 月 20 日 (2017.2.20)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

カニユーレであって、

a) 柔軟な遠位部分に接続された剛直な近位部分、

b) 前記剛直な近位部分と前記柔軟な遠位部分の中にあり且つそれらの間に延在する第 1 の重合体のルーメンおよび少なくとも第 2 の重合体のルーメンと、
を備え、

c) 前記第 1 の重合体のルーメンが、前記柔軟な遠位部分の中にあり且つ該柔軟な遠位部分に沿って延在する柔軟な補強部材を有し、

d) 前記少なくとも第 2 の重合体のルーメンが流体供給源に流体連通されており、

接続されている前記柔軟な遠位部分と前記剛直な近位部分は、人の鼻の空洞内に挿入されて動かされることが可能であり、そのような空洞内を動く場合、前記剛直な近位部分は、前記カニユーレが曲げられることを防止しまたは妨げ、前記柔軟な遠位部分は、45 度より大きく曲げられたときに該柔軟な遠位部分が湾曲しないような、デュロメータによって計測される硬度を有し、前記柔軟な遠位部分が新たな形状となるように曲げられるまでその形状を維持するように前記柔軟な補強部材が十分な曲げ剛性を有する、
カニユーレ。

【請求項 2】

前記柔軟な遠位部分が 90 度曲げられるときに湾曲しない、請求項 1 に記載のカニユーレ。

【請求項 3】

前記柔軟な遠位部分が 180 度曲げられるときに湾曲しない、請求項 1 に記載のカニユーレ。

【請求項 4】

前記柔軟な遠位部分のデュロメータによって計測される硬度が 60 ~ 95 ショア A である、請求項 1 に記載のカニユーレ。

【請求項 5】

前記剛直な近位部分が、円筒形の金属性またはプラスチックのチューブを含む剛直な

支持部材を有する、請求項 1 に記載のカニユーレ。

【請求項 6】

前記柔軟な遠位部分がスプレーヘッドに接続される、請求項 1 に記載のカニユーレ。

【請求項 7】

前記カニユーレと前記スプレーヘッドとの間に滑らかな移行インターフェースを提供するシースを更に有する、請求項 6 に記載のカニユーレ。

【請求項 8】

前記カニユーレが 4 つのルーメンを有する、請求項 1 に記載のカニユーレ。

【請求項 9】

前記カニユーレが、別個の流体供給源に流体連通されるように構成される少なくとも 2 つのルーメンを有する、請求項 1 に記載のカニユーレ。

【請求項 10】

前記カニユーレが、副鼻腔内で使用するための寸法になっており、前記剛直な近位部分および前記柔軟な遠位部分がそれぞれある長さを有し、前記剛直な近位部分の長さおよび前記柔軟な遠位部分の長さの比は 1 : 2 から 2 : 1 である、請求項 1 に記載のカニユーレ。

【請求項 11】

前記剛直な近位部分は 3 c m から 10 c m の長さであり、前記柔軟な遠位部分は 4 c m から 8 c m の長さであり、前記カニユーレは 0 . 1 c m から 1 . 0 c m の外径を有する、請求項 1 に記載のカニユーレ。